

## ベストクラス選定理由書

作成者：浅原知尋、岡崎彩夏、岡山優芽、大槻真桜子、金本さくら、藤原舞香、石橋由紀子

科目名称	社会の中の言語文化		
	(担当教員名： 菅井 三実、岡崎 渉 )		
課 程	： 学部	開講時期	： 前期
授業形態	： 講義	授業規模	： 81人以上
インタビュー対象教員名	： 菅井 三実、岡崎 渉 (実施日時： 2021年8月27日(金) ; 実施場所： Zoomによる実施 )		
インタビュー対象受講者名	： 前畑 美月、小林 沙羅、松井 結奈 (実施日時： 2021年8月27日(金) ; 実施場所： Zoomによる実施及びメール )		
<p><b>【授業評価コメントから】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメント数が多く、受講生にとって「コメントとして書きたい内容」が詰め込まれた授業であることがうかがわれた。</li> <li>・講義内容が「楽しかった」「刺激になった」「言語や文化を捉え直すことができた」等のコメントが多くあり、知的好奇心を掻き立てる授業内容であることがうかがわれた。</li> <li>・オンラインの利点が活かされた授業であったとのコメントが多く記載されていた。</li> </ul> <p><b>【担当教員・受講生のインタビューから】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいは、標準履修年次が1年生であることから、言語についての多様性・相対性の理解を促すことにより、受講生のこれまでの「思い込み」を打破していきたいとのことであった。この「多様性と相対性」というコンセプトは担当教員二名に共通しており、このコンセプトのもとでそれぞれの専門性に基づいた授業内容が構成されていた。</li> <li>・岡崎先生の担当回(前半)は、事前に動画を視聴し、授業時間に小テストを行うという形式であった。授業内容を20~30分の動画に収める作業は、授業者自身が授業のねらいを明確にする作業であったと述べられていた。受講生のインタビューでは、動画視聴—小テストという形式は「動画は分からないところを見返し、何度でも確認できる」「(小テストの)記述式で良かったものを紹介しており、自分自身の振り返りになった」と発言されており、受講生自身が学びを確認する機能を果たしていたことがうかがわれた。</li> <li>・菅井先生の担当回(後半)はzoomによる同期型を採用し、リアルタイムの良さを活かした授業展開を行っていた。多様な表現(方言)を実感させるために、野菜の画像を提示し、どう表現するかをzoomの投票機能を用いて尋ねる、方言を用いた動画教材を視聴するなど、抽象的になりがちな題材を学生の身近な事象に落とし込む工夫がなされていた。このような工夫が、受講生のインタビューにおける「具体例をはさんだ講義内容であったので、理解がしやすかった。」「他の誰でもない私たち自身のデータをみることで、より深掘りしたい気持ちになれた」という言葉につながっていると考えられた。さらに、受講生のインタビューにおいて、自分が関心を持った課題をレポート課題として主体的に調べ、まとめたことが語られており、受講をきっかけに受講生自身の能動的な学びへとつながっていることがうかがわれた。</li> </ul> <p><b>【まとめ】</b></p> <p>以上のことから、「社会の中の言語文化」をベストクラスとして推薦したい。</p>			